

### Ⅲ 栃木県総合教育センターの取り組み

#### 1. 「IT講習会」の実施

##### (1) 平成13・14年度県内全市町村で実施

平成13年から平成14年まで、県の機関や県立高校、市町村の公民館や小中学校を利用して、パソコンの基礎的な技術を習得してもらうための「IT講習会」を県と市町村で実施し、栃木県全体で延べ93,076人（県11,485人、市町村81,591人）の県民が受講した。

これは、200万県民の約5%に当たる。

##### (2) 「IT講習会」とそのフォロー

総合教育センターでは、平成13・14年合わせて90講座×定員30名の「IT講習会」を開催し、2,093人（出席率77.5%）の受講者があった。一日6時間×連続する2日間でパソコンの基礎についての講習を実施した。

受講者からは、その後のステップアップ講座を望む声がアンケートなどに寄せられた。初めてパソコンに触れた人たちが12時間だけインターネット、メール、ワープロソフト、表計算ソフト（一部の講座）を学習しても、なかなか身に付くところまではいかないのが

実情である。指導者の養成を業務としている総合教育センターでは、初心者スキルアップ講座を実施することは難しく、別なアプローチとして学習情報センターで実施している「学習相談」のパソコン分野を特化してボランティアに実施してもらうことを考えた。

##### (3) パソコンの整備と活用

県生涯学習関係機関において、「IT講習会」開催のためパソコンが320台整備された。総合教育センターの60台をはじめとして、図書館、博物館、青少年施設にパソコンが20台以上整備され、「IT講習会」使用後の各施設の特徴にあわせて事業を展開し活用されている。

総合教育センターでは、インターネットも含めて常時31台のパソコンを使用可能な状態にしておき、毎週土曜日にパソコン相談会場として利用したり、生涯学習関係の研修等においては、そのほかのパソコンも併せて利用している。

市町村に整備されたパソコンの活用についても、パソコン講座開設、地域住民への開放などの利用が期待される。